

授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

国語	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【読解力と表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文を読んで感想を言葉で伝えたり、考えたことを言葉で書いて表現をしたりすることに個人差がある。</li> </ul> <p>【言葉の表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○長音、拗音、促音、撥音などの表記や、助詞の「は」「へ」「を」の使い方の理解が身についていない児童がいる。</li> </ul>	<p>【活動の順序の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近なことや経験したことを報告したり、思ったことを発言させてから書く活動を行ったりする。</li> </ul> <p>【言葉の表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○長音、拗音、促音、撥音、助詞を使用する機会を増やし、使い方の理解を深める。</li> </ul>	
2年	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○互いの話に関心をもって聞き、話し合うことが難しい児童が多い。</li> </ul> <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経験したことや想像したことを文章にして書くことに苦手意識をもっている児童が多い。</li> </ul>	<p>【相手の発言を受けて話をつなぐ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業中の発言は、教師とのやりとりとして捉えさせるのではなく、児童が互いに話に関心をもち、話がつながることの楽しさやよさを実感できるような授業づくりを行う。</li> </ul> <p>【自分の思いや考えを明確化して書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間や事柄の順序に気を付けて、文章には「始め-中-終わり」などの構成があることを例文などで示し、何度も指導していく。</li> </ul>	
3年	<p>【集めた情報を整理して書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べて分かったことを、項目ごとに整理して書くことが難しい。</li> </ul> <p>【同音異義語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の書き取りにおいて、読み方は同じだが異なる意味の字を書いてしまう。</li> </ul>	<p>【集めた情報を整理して書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べて分かったことを文章に表す過程を丁寧に指導するとともに、具体的な例文を示す。</li> </ul> <p>【同音異義語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字には意味があることを理解させると共に、前後の意味から適切な漢字を選んで書けるようにする。</li> </ul>	
4年	<p>【読解力と表現力との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の内容や構造を捉え、それを基に体験等結び付けながら自分の考えを表現することについて、苦手意識がある。</li> </ul> <p>【辞書、辞典の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語辞典、漢字辞典の引き方は学習したが、目的に応じて選択し、効率よく適切な情報を得るための手段としては定着していない。</li> </ul>	<p>【ワークシートの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○考えと事例を区別して捉えたり、叙述を基に登場人物の行動や気持ちを読み取ったりする活動を丁寧にこなせるよう、ワークシートを工夫する。また様々な表現に触れさせることで、語彙を増やす。</li> </ul> <p>【いつでも手に取れる環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べたい時にいつでも辞典等が手に取れるような環境を整え、適切な情報を効率的に得られるような活動を取り入れていく。</li> </ul>	
5年	<p>【読解力と表現力との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の内容や構造をとらえ、そこから自分の考えを表現することについて、個人差が大きい。</li> </ul> <p>【調べ学習のまとめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べたい内容を広げすぎてしまい、文章の構成に悩む児童が多い。</li> </ul> <p>【自分の考えを具体的に書く力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○報告文を書くときに、「きっかけ」や「調べ方」が多様にならず、考えを表現する力が弱い。</li> </ul>	<p>【考え方の共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の考えを、モニターで映し全体で確認しながら進めていく。接続詞を種類別に整理していく。</li> </ul> <p>【調べ学習の手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入を大事にし、児童の身近なものに寄せて一人一人が調べたいことについてイメージできてから学習を進めていく。</li> <li>○調べ学習の際にはあらかじめ、図書館から借りた本を用意しておく。</li> <li>○調べたい内容を一度しっかり決定させてから、調べ学習へと進むようにする。</li> </ul>	
6年	<p>【叙述をもとにした深い読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物語分の読み取りにおいて、人物の気持ちや筆者の意図を叙述からでなく、何となく、雰囲気などでとらえてしまう場面が見られる。</li> </ul> <p>【文章で表現する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感想や体験などを書く際、語彙が少ないために不明瞭な文章になってしまったり、主語と述語のつながりが正確でない文章になってしまったりする。</li> </ul>	<p>【細かな表現に着目した指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○常に叙述を根拠として考えるよう指導するとともに、発言によって考えを共有する際は、考えに至った根拠を明確にし全体の考えを深められるようにする。</li> </ul> <p>【文章の構成や言葉のつながりを繰り返し指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「書くこと」の単元の学習だけでなく、年間を通してモジュールの時間を活用し、主語述語のつながりを理解したり、語彙を増やすための熟語や慣用語を理解したりする学習を繰り返し行う。</li> </ul>	

授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

生活	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【気付きに対する表現】 ○「アサガオの観察」や「きせつとなかよし はる なつ」では、成長に対して気付いたことや草花・生き物の様子について言葉で表すことに個人差がある。</p>	<p>【表現の工夫】 ○国語の「おおきくなった」と関連させながら、観察の観点を確認したり、書き方を確認したりすることにより、言葉で表せる語句を増やす。 ○絵や図を中心にまとめたものから、書いた文章を分かりやすく相手に伝えたり、発表したりする場を設ける。</p>	
2年	<p>【意欲、気付き】 ○感染症対策で、「学校たんけん」や「町たんけん」が例年通りの形ではできなかったため、1年生の時よりも成長している自分への気付きや自分の住んでいる町についての気付き、2年生としての生活に対する意欲や、自分の住んでいる町について知ろうとする意欲がもちにくい。</p>	<p>【意欲、気付き】 ○2学期の町探検では、密にならない工夫をしつつ、例年行っている地域の方々へのインタビューを取り入れた学習を行うことで、自分の住んでいる町について知ろうとする意欲や気付きが促されるようにする。 ○野菜の観察カードをまとめる学習では、1年生の時よりも細かく観察できるようになっていた自分に気付くように促すなど、一つ一つの学習を通じて自分の成長への気付きや、先の生活や学習への意欲が促されるようにする。</p>	

授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

算数	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【文章問題の意味の理解】</p> <p>○計算はできるが、問題の絵だけを見て間違っ式を立ててしまう児童がいる。</p>	<p>【具体物の操作】</p> <p>○問題の場面を正しく式化するために、ブロック等を用いて具体的操作を繰り返し行うようにする。</p> <p>【式の意味】</p> <p>○式を基に、それに合う場面を選ぶ活動やお話づくりの活動などを取り入れることで、式の意味理解を深めることができるようにする。</p>	
2年	<p>【習熟度の開き】</p> <p>○習熟度に応じた少人数指導を行っているが、習熟度別学級の中でも個人差があり、学習内容の定着が難しい児童が見られる。</p> <p>【量感の習得】</p> <p>○30cm定規のめもりが表す長さの読み取りが困難な児童が多い。</p> <p>【類推する力】</p> <p>○1めもりがいくつか分からず数直線上の数を正確に読み取ることが困難な児童がいる。</p>	<p>【個別指導の充実】</p> <p>○机間指導をこまめに行い、児童の定着の様子をきめ細かく把握した上で、指導の工夫を見直したり、児童の実態に応じて個別指導が可能となるような場の設定を工夫する。</p> <p>【体験活動の充実】</p> <p>○30cm定規の実物を用いて、めもりを読み取る練習を重ねることで量感が培われるようにする。</p> <p>【視覚的な支援の充実】</p> <p>○視覚的な支援を充実させることで量の関係が視覚的に捉えられるようにし、類推する力が育つようにする。</p>	
3年	<p>【筋道を立てて課題解決をし、表現する】</p> <p>○既習事項を生かして、課題解決のための方法を説明したり、分かりやすく説明したりすることが難しい。</p> <p>【量感】</p> <p>○実感を伴った知識として、量感が十分育っていない児童がいる。</p>	<p>【課題解決型学習の授業の充実】</p> <p>○思考を促すために課題や必要とされる既習事項を明確に提示する。考えを表現するために式、図、文章など多様な手段があることを伝える。また、発表の仕方の型を手がかりにして、必要に応じてICTを活用した発表を取り入れる。</p> <p>【体験活動の充実】</p> <p>○長さや重さに触れる活動を多く取り入れ、日常生活において長さや重さが意識できるような働きかけを行う。</p>	
4年	<p>【数の仕組みの把握】</p> <p>○大きな数や小数の学習で、数の仕組みがうまく捉えられず操作が困難になることがある。</p> <p>【分度器の使用と角の大きさ】</p> <p>○分度器の使い方が定着していなかったり、角度の量感が育っていないため計測した角度の間違いに気付かない児童がいる。</p>	<p>【数の操作を通して復習】</p> <p>○計算や概数の学習など数や位をどのように捉えるかをしっかりと押さえながら学習を進めるようにする。</p> <p>【個々の実態把握】</p> <p>○どこでつまづいているのか把握した上で、児童個人の学習進行を考えたり、個別の支援を行ったりする。</p>	
5年	<p>【計算力の定着】</p> <p>○わり算に苦手意識をもっている児童が少なからずいる。そのため、割合の学習などわり算が必要とされる学習に支障が出ている。</p> <p>【二量の関係の捉え方】</p> <p>○変化する2つの量が文章の中に出てくると、どの数字を使ってどのような式にすべきか迷ってしまう。</p>	<p>【計画的な練習と個別の対応】</p> <p>○個別に復習が必要な計算練習が何かを把握する。宿題の中に計算練習を盛り込んだり、授業でミニテストを実施したりして、指導と経過を把握する機会を設定していく。</p> <p>【数直線の活用】</p> <p>○文章を読み取るためのポイントをおさえる。</p> <p>○読み取った数を数直線に表し、それぞれの量の関係を視覚的に捉え、正しい式に結び付けるようにする。</p>	
6年	<p>【伝え合う学習の充実】</p> <p>○学習課題に正対し、解決に至ることができるが、解決の過程を表現することに意欲的でない児童が多い。また、自分の考えを伝え合う場面で、発表する児童が限定されている傾向が見られる。</p>	<p>【表現力の向上】</p> <p>○解決に至るための道筋を丁寧に表現することの重要性を伝え、式、図、数直線、文章など様々な手段を提示する。</p> <p>○必要に応じてICTの活用を促す。</p> <p>○伝え合う場の設定を工夫する。</p>	

授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

社会	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
3年	<p>【情報の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集めた情報の中で何が大切で何が大切でないのか、判断することが難しい。</li> </ul> <p>【地図の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図を見て、土地の使われ方や土地の高さを読み取ることが難しい。</li> </ul>	<p>【情報の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○何についての情報を調べるのか、目的を明確にした発問や授業展開により情報の適切な取捨選択につなげられるようにする。</li> </ul> <p>【地図の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○凡例を参考に、何が何を示しているのかを明確にすることで、地図読み取りの技能を高めていくとともに、地図の便利さにも気付けるようにする。</li> </ul>	
4年	<p>【資料の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○複数の資料(写真や図、グラフ)を関連付けて、必要な情報を読み取ったり、見つけ出ししたりすることが難しい。</li> </ul> <p>【都道府県の学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○知識先行で単調な学習になってしまう。</li> </ul>	<p>【資料の精選、提示の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童に読み取らせたい資料を精選し、ICT機器等を活用し、提示の仕方を工夫する。</li> </ul> <p>【実感を伴う理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○都道府県の学習では、映像資料や地図帳、ゆかりのある物などを用いて、興味関心を高める。</li> </ul>	
5年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界地図や地球儀から、日本の国土や世界の国々の位置を読み取ることが難しい。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習した知識について言葉で適切に説明することが難しい。</li> </ul>	<p>【実感を伴う授業展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図帳を用いて場所をなぞりながら各国の位置関係をとらえたり、地球儀を用いて方位を確認しながら、紙テープを巻きつけて縮尺からおよその距離を把握したりできるようにする。</li> </ul> <p>【表現の機会の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習して自分で考えたことや分かったことを、少人数で積極的に意見交流することで、考えを表現する機会を増やすとともに、近くの友達へ発言することで自信をもち、学級全体への発信につなげられるようにする。</li> </ul>	
6年	<p>【知識の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史の学習において、言葉や人物を覚えることはできるが、時代背景や出来事までの流れ、各事象の相互関係の理解が定着していない。</li> </ul> <p>【資料を読み取る力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の読み取りが浅く、書いてあることを見つけるだけの活動になってしまう。</li> </ul>	<p>【図解化による単元のまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1つの単元の中で出てきた人物や出来事、用語をキーワードで関連付けて単元のまとめを行うことで、関連性や時代の流れがおさえられるようにする。</li> </ul> <p>【資料の精選と深い読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が深く考えられる資料を精選するとともに、思考がつながる発問や考えの助けとなる助言をし、時代背景や当時の社会の流れまでつかめるようにする。</li> </ul>	

授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

理科	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
3年	<p>【課題解決の力】</p> <p>○実験に対する意欲が高い児童が多いが、予想や仮説を立てたり、結果から分かることを自分の言葉でまとめたりすることは難しい。</p> <p>【観察力】</p> <p>○動植物を一生懸命に観察カードに描いている児童が多いが、観察の視点が定まっていない児童がいる。</p>	<p>【課題解決の手順】</p> <p>○2学年までの生活科との違いを明確にし、観察や実験において、問題→予想→計画→検証(観察・実験)→結果→考察という課題解決の手順を定着させ、見直しをもって臨めるようにする。</p> <p>【観察の視点】</p> <p>○観察において、比較したり関係付けたりするなど、的確な視点で考えを広げている児童の意見を紹介し、学級全体で共有する。</p>	
4年	<p>【課題解決の力】</p> <p>○実験、観察に対する意欲は高いが、根拠のある予想や仮説を立てたり結果から分かる科学的な性質や規則性について自分の言葉でまとめたりできる児童は少ない。</p>	<p>【課題解決の活動】</p> <p>○問題→予想→計画→検証(観察・実験)→結果→考察という問題解決の流れを定着させ、見直しをもって実験、観察が行えるようにする。</p> <p>【見方・考え方の共有】</p> <p>○実験、観察において、比較したり関係付けたりするなど、よい視点で考えを広げている児童の意見や考察を取り上げ、学級全体で共有する。</p>	
5年	<p>【課題解決の力】</p> <p>○実験、観察に対する意欲は高い児童が多く、根拠のある予想や仮説を立てることができる。しかし、結果から分かる科学的な性質や規則性について自分の言葉でまとめられる児童は少ない。</p>	<p>【課題解決の活動】</p> <p>○問題→予想→計画→検証(実験・観察)→結果→考察という問題解決の流れを定着させ、見直しをもって実験、観察が行えるようにする。</p> <p>【見方・考え方の共有】</p> <p>○実験後、結果を基に近くにいる児童同士で話し合いをし、比較したり関係付けたりして考えをまとめ、その後学級全体で共有する。</p>	
6年	<p>【目的意識をもった学習】</p> <p>○何を明らかにするための実験や観察なのかを意識できていない児童が一定数いる。</p> <p>【実験や観察の技能】</p> <p>○実験器具の扱い方、実験や観察したことから結果を整理し考察することに課題がある児童が2～3割いる。</p>	<p>【課題把握から考察、まとめまでの学習の流れ】</p> <p>○課題把握では、何を明らかにするための実験なのか、そのためにどんな器具をどのように使うのかを丁寧に指導するようにする。</p> <p>【ノート指導の充実】</p> <p>○学習の流れが分かる板書とノート指導を行うとともに、結果と考察の違いを意識させ、科学的思考を伸ばすようにする。</p>	

授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

音楽	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【技術の習得】 ○鍵盤ハーモニカの運指能力を高める。</p>	<p>【技術の習得】 先ずは鍵盤ハーモニカ以外の打楽器の演奏経験を積ませ、リズムや皆で合わせて演奏することの楽しさを経験させる。鍵盤に関しては、紙の鍵盤を用いて指を動かす練習をさせる。指導者がオルガンを弾き、音を確認してシュミレーションする。</p>	
2年	<p>【技能の習得】 ○鍵盤ハーモニカの鍵盤位置が分からない児童が多い。</p> <p>【リズム感の習得】 ○拍子感、リズム感の習得が進まない児童が多い。</p>	<p>【技能の習得】 ○鍵盤ハーモニカは、ペーパー鍵盤やミニキーボードを導入し、タブレットに教師の手本画像・動画を載せ、画面を見ながらシュミレーションさせ、運指などの技能の習得を目指す。</p> <p>【リズム感の習得】 ○リズム活動を常時行い、タブレットと連携させる</p>	
3年	<p>【技能の習得】 ○鍵盤ハーモニカの鍵盤位置が分からない児童が多い。 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指能力に個人差が多い。</p>	<p>【技能の習得】 ○リコーダーは、ペーパーリコーダーを作成し、イメージをさせ、鍵盤ハーモニカは、ペーパー鍵盤やミニキーボードを導入し、タブレットに教師の手本画像・動画を載せ、画面を見ながらシュミレーションさせ、運指などの技能の習得を目指す。家庭で実際リコーダーを吹くように課題を出す。</p>	
4年	<p>【技能の習得】 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指能力に個人差が多い。</p> <p>【リズム・音符の理解】 ○たたくリズムと音符の連動的理解ができない児童が多い。</p>	<p>【技能の習得】 ○リコーダーは、ペーパーリコーダーを作成し、イメージをさせ、鍵盤ハーモニカは、ペーパー鍵盤やミニキーボードを導入し、タブレットに教師の手本画像・動画を載せ、画面を見ながらシュミレーションさせ、運指などの技能の習得を目指す。家庭で実際リコーダーを吹くように課題を出す。</p> <p>【リズム・音符の連携】 ○リズム活動を常時活動化し、タブレット、シンセサイザーと連動し、理解を向上させる。</p>	
5年	<p>【技能の習得】 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指能力に個人差が多い。</p> <p>【音楽用語の習得】 ○音楽経験の少ない児童にいかに関心させるかを検討する。</p>	<p>【技能の習得】 ○リコーダーは、ペーパーリコーダーを作成し、イメージをさせ、鍵盤ハーモニカは、ペーパー鍵盤やミニキーボードを導入し、タブレットに教師の手本画像・動画を載せ、画面を見ながらシュミレーションさせ、運指などの技能の習得を目指す。家庭で実際リコーダーを吹くように課題を出す。</p> <p>【音楽用語の習得】 ○タブレットで連動し分かりやすい習得を目指す。</p>	
6年	<p>【技能の習得】 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指能力に個人差が多い。</p> <p>【楽曲の理解】 ○共通教材など歌詞が今の児童にはイメージがしにくい。</p>	<p>【技能の習得】 ○リコーダーは、ペーパーリコーダーを作成し、イメージをさせ、鍵盤ハーモニカは、ペーパー鍵盤やミニキーボードを導入し、タブレットに教師の手本画像・動画を載せ、画面を見ながらシュミレーションさせ、運指などの技能の習得を目指す。家庭で実際リコーダーを吹くように課題を出す。</p> <p>【イメージ化】 ○タブレットに歌詞と画像・動画を連携させ、イメージをもたせる。</p>	

授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

図工	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【学びに向かう力】 ○題材の説明や用具の扱い方を、正確に聞き取り理解することが難しいため、自分の思いを表現することができない児童がいる。</p>	<p>【指導法の工夫】 ○実物投影機や映像などのICT機器を使って、視覚的に分かりやすい場の設定を考慮して準備する。 ○説明を順番に確認しながら行うことで、落ち着いて活動内容を理解させ、描くことや作ることが楽しいという体験を多くさせる。</p>	
2年	<p>【自分の見方や感じ方】 ○自分や友達の作った作品や作りつつある作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を広げ、作品づくりに生かすことができていない児童が多い。</p>	<p>【自分の見方や感じ方を広げる】 ○身の回りの作品や材料などを見たり触ったりしたときの素直な驚きを大切に、それを広げたり確かめたりする指導をする。 ○感じたことや思ったこと、考えたことを言葉で整理するなどの言語活動を充実させる。</p>	
3年	<p>【思考力・判断力・表現力】 ○自分の表したいものには意欲的に工夫を凝らして表現することができるが、友達のよい表現を認め、自分の表現と比べたり、生かしたりすることが十分ではない。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○ICT機器や鑑賞カードを工夫して使い、鑑賞の時間を毎時間の授業の中で取り入れる。 ○自分や友達の作品を鑑賞する時には見る視点を与え、作品を通して表現の違いや良さを学ぶ機会をつくる。</p>	
4年	<p>【学びに向かう力】 ○自分の表現に自信がもてず、材料や道具を自分で考えて工夫して扱い、試行錯誤することに苦しさを感じている。</p> <p>【基礎的な知識・技能】 ○道具や用具をねらいに合わせて扱うことができないために、自分の思いを表現することができない児童がいる。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○多様な材料や道具を使用しての作品作りに児童が主体的に取り組める題材を設定する。 ○ICTなどを取り入れて視覚的に分かりやすい鑑賞活動を行い、児童がお互いに学び合い認め合うことができるようにする。</p> <p>【活動形態の工夫】 ○同じ道具や用具を系統性を持たせて繰り返し使うことができるように年間計画を工夫する。 ○ペアで行う活動を取り入れ、お互いに学び合い理解してから活動を進めるようにしていく。</p>	
5年	<p>【思考力・判断力・表現力】 ○作りたいものに合わせて、材料や道具を使い分けたり、友達の作品を鑑賞したりすることで、自分の表現を深めていくことが苦手な児童が多い。</p> <p>【知識・技能】 ○基本的な技能や知識が身につけていないため、材料や道具を上手く扱うことができず、自分の力で表現することが難しい。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○導入時に材料や道具の扱い方をICT機器を使って繰り返し指導し、知識や技能の定着を図っていく。</p> <p>【鑑賞活動の充実】 ○鑑賞のねらいを明確にし、ICT機器を使って、深まりのある表現を視覚的に示していく。 ○制作中に工夫しているところを映像で記録し、クラスで共有して友達のよい表現を伝えていく。</p>	
6年	<p>【思考力・判断力・表現力】 ○題材に考慮しながら様々な描き方、手法を使い活動している。鑑賞と表現とのつながりを意識させ、広い視野からの活動ができるようにすることが課題である。</p> <p>【最後まで作り上げる力】 ○発想やイメージする力もあり、表現することもできるが自分が作りたいものに対して高まりをもって最後まで作り上げていこうとする力が弱い。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○デザイン的、日本画的な表現など多様な表現方法があることを理解し、作品に活かせるように題材を設定していく。芸術作品等の関連ある例示を準備する。</p> <p>【場の工夫と鑑賞活動の充実】 ○制作時間を確保するために、道具や材料の配置や大きさを精査して提示していく。 ○日本や世界の美術作品を鑑賞する時間を取り、よい表現に触れさせるとともに、制作方法や技術も学習させていく。</p>	

授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

家庭	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
5年	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○休校中に料理をする児童が多く、家族の一員として意欲的に手伝っている様子が伺える。しかし、料理の仕方が自己流な部分があるので、基礎的・基本的な知識を身に付けていない。</li> </ul> <p>【日常生活との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活から課題を見付けることや、学んだことを日常生活に生かすことが十分でない。</li> </ul>	<p>【実践的・体験的な活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本を丁寧に教えてから、実習に備えていく。</li> </ul> <p>【日常生活との関連付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭生活、学校生活の中で学んだことを生かせる場を意識したり、意図的に設定したりして日常につなげていく。</li> </ul>	
6年	<p>【学びに向かう力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○興味関心のあるないによって学習への積極性が顕著である。</li> <li>○環境面で恵まれた児童が多いせいか、日常生活において不都合が少ないようで、生活をよりよくしようとする態度があまり見られない。</li> </ul> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経験の差からか、個人差が大きい。</li> </ul>	<p>【実践的・体験的な活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境づくりや制作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりできるように授業を工夫し、生活をよりよくしようとする意欲関心を高める。</li> </ul> <p>【日常生活との関連付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身に付けた知識や技能などを日常生活に生かせるよう、家庭に呼び掛ける。</li> </ul>	



授業改善推進プラン<教科別>

学校名

練馬区立立野 小学校

体育	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【遊び経験の不足】 鉄棒遊びの経験が少なく、他の領域に比べて苦手な傾向がある。鉄棒をしっかり握って体を支えることができない児童、頭を下にすることや回転することに恐怖を感じる児童がいる。</p>	<p>【経験を積ませる】 ○授業の中で色々な動きや技を取り入れ、多くの経験を積ませる。遊びの中で自然に取り入れることにつなげていく。苦手意識をもたせないように、段階的に指導するような学習過程を組む。</p>	
2年	<p>【思考力・判断力・表現力】 ○遊びの工夫を行う時に、どのような工夫をしたら楽しくなるかを他者に伝えることが難しい児童がいる。 ○自分の力や目的に合わせた遊びを設定することが難しい児童がいる。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】 ○考えたことを言葉や身振り手振りなどを使って表現する時間を設ける。 ○自分の力や目的に合わせた遊びを選択できるような具体的な場を設定し、段階的に遊び方を工夫できるようにする。</p>	
3年	<p>【経験不足な運動】 ○休み時間によく見かける鬼遊びやボール遊びに比べ、行う機会の少ない鉄棒、マット等の器械運動は苦手な傾向がある。 【生活習慣の乱れ】 ○感染症予防のため自宅で過ごす時間が増え、生活習慣や健康状態が不安定な児童がいる。</p>	<p>【段階的な指導】 ○苦手な児童も安心して臨めるよう、個々の能力に合った技を選んで挑戦できるような学習過程を組む。 【健康についての知識】 ○自身の健康と生活習慣とが密接に結びついていることを理解させ、生活習慣を見直そうとする態度を養う。</p>	
4年	<p>【規則の理解や勝敗の受け入れ】 ○どの領域に関しても意欲的に取り組んでいる様子が見られる。しかし、正確に規則を理解していなかったり勝敗を受け入れられず文句を言ったりする児童がいる。 【能力の低下】 ○感染症予防の関係もあり、器械運動・走力・ボール遊び等の技能が下がっている傾向がある。</p>	<p>【勝敗の受け入れ】 ○力のばらつきがないよう、チームを分けたり活動を精選したりして、勝敗に不平等が起きないようにする。判定に従うことやフェアプレーの大切さについて、継続的に伝えていく。 【個々の支援】 ○苦手や不安を感じている子に対して、能力に応じた指導を行う。</p>	
5年	<p>【言葉遣いや声かけ】 ○ゲーム中にチームメイトに対して強い口調になったり、負けた相手に対して追い打ちをかけるような言動が見られる児童がいる。 【運動が苦手な児童の増加】 ○運動そのものが嫌いになっている児童が、増加している傾向がある。</p>	<p>【言葉遣いの指導と声かけの仕方の共有】 ○具体的に自分の身に置き換えたり学級の児童の気持ちを共有したりすることで、よい言動について考えさせる。 【健康につながる視点をもつ】 ○運動することで体の発達に良い影響があることを伝えたり、他者との比較ではなく個人での成長を見取れる機会を作ったりする。</p>	
6年	<p>【思考力・判断力・表現力】 ○個人の技能の向上、チーム力の向上に向けた問題解決や表現力が十分でない児童がいる。 【保健】 ○知識を習得することはできている児童が多いが、得た知識を自分の生活に生かす方法を思いつかない児童や生かそうとする意欲が低い児童がいる。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】 ○運動をする中で、児童が解決したいと思えるような課題やはじめのルールを設定する。ねらいを明確にし、めあてと振り返りに一貫性をもたせる。 【保健】 ○アンケートをとるなどして児童の実態を捉える。児童に身近な事象で課題を設定し、日常化につなげるようにする。</p>	

授業改善推進プラン<教科別>

学校名 小学校

外国語	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	評価(◎○△)
5年	<p>【知識・技能】 ○外国語のおおよその内容を聞き取ることや、語句を読むことが難しい。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○目的や場面、状況に応じて基本的な表現を考えることが難しい。</p>	<p>【技能の習得】 ○外国語の音声を流すときに、短く区切り何度も繰り返すことや、音声の速度を遅くすることで慣れ親しませる。</p> <p>【場の工夫】 ○場面を限定し、何度も基本的な表現を繰り返し使用できるようにし、話す機会を増やし慣れ親しませる。</p>	
6年	<p>【主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度】 ○単語や文法が正しいかどうか分からないという不安感が強く、積極的にコミュニケーションをとることができない。 ○授業中に意味が分からないまま学習が進んでしまい、楽しんで参加できない。</p>	<p>【英語を使った表現に慣れ親しむ機会を増やす】 ○モジュール学習を活用し、予習・復習を行ったり、何度も聞いたり声に出したりする活動を行うことで、発話への緊張感を取り除く。 ○簡単な単語の意味や文法の流れを確実におさえ、ゲームやチャンツを活用し、楽しみながら繰り返し学習できるようにする。</p>	